

## RUBeC 演習に参加して

小林 知 紘

Tomohiro KOBAYASHI

機械システム工学専攻修士課程 1年

### 1. はじめに

2016年8月13日～29日までの2週間、龍谷大学北米拠点（RUBeC）において開催されたRUBeC演習に参加しました。この留学プログラムでは、自身の研究論文を英語の学術誌へ投稿できる内容に仕上げるテクニカルライティングの授業とそれを国際会議で発表できるように英語でのプレゼンテーションの方法を学ぶオーラルプレゼンテーションスキルの授業を受講しました。

また、カリフォルニア州サンタローザに社をおく Thermal Technology 社と龍谷大学と協定校である UC Davis（カリフォルニア大学デービス校）を訪問しました。

### 2. 留学目的

私が RUBeC 演習に参加した目的は、国際会議で自身の研究内容を発表できるようになるため、英語での研究論文の執筆およびプレゼンテーションスキルの向上を図りたかったからです。また、2週間の海外生活の中で、現地の生活スタイル・文化・価値観に触れることにより、自身の視野を広げたいと思いました。

### 3. 授業内容

#### 3.1 テクニカルライティング

午前中に行われたテクニカルライティングの授業では、冠詞・前置詞・接続詞などの基礎的な文法を学びました。英文の基礎構造を改めて理解し、事前に作成した自身の研究内容に関する英文要旨を校正していききました。

英文要旨の校正では、特に冠詞の修正を中心に行いました。名詞の前におく“a”、“an”や“the”

と、普段はあまり意識することなく使用していたのですが、今回の授業で正しい使い方を学ぶことができました。また、英文要旨の校正は冠詞や前置詞、接続詞のみではなく、全体の文章構成についても行いました。ライティング担当の先生と話し合いながら、初見の方にも私の研究内容が理解していただけるような、より伝わりやすい文章へと修正していききました。英語に限らず、日本語で論文を作成する際にも参考となることを教えていただき、非常に有意義な授業でありました。

#### 3.2 オーラルプレゼンテーションスキル

午後に行われたオーラルプレゼンテーションスキルの授業では、英単語の正しいアクセントやイントネーションの仕方を学びました。私達日本人が話す英語は単調なため、現地の方からすればとても聞き取りにくいのだそうです。英単語のどの部分を強調するのかというワードストレス（word stress）や文章を読む際の区切り方であるチャンク（chunk）を用いることで現地の方に理解していただくことが可能となりました。また、プレゼンテーション担当の先生には、効果的なプレゼンテーションの仕方もご指導していただきました。聴衆の皆さんに私の研究内容を理解していただくためには、正しい発音もそうですが、わかりやすいスライドの作成や相手を惹きつけるためのジェスチャーが重要ということを教えていただきました。

授業最終日には、自身の研究内容についてのプレゼンテーションを行いました。授業で学んだ技術を活かせるように意識しながら発表することはなかなか難しかったのですが、手応えを感じることもでき、よい経験となりました。

### 4. 企業および大学訪問

RUBeC 演習では、現地の生産企業である Thermal Technology 社と龍谷大学協定校である UC Davis へ訪問する機会もありました。

Thermal Technology 社は、放電プラズマ焼結とい

う粉体・固体を含むさまざまな材料の焼結、接合などを可能にする次世代の材料加工法を用いたカスタマイズ製品を製造する生産企業です。自社で放電プラズマ焼結の実験を行い、製品の製造過程で必要となる設備も製作されていました。「焼結実験」から「製品製造」までのほぼ全てを自社で行うことにより、材料の特性を最大限活かした製品の製造が可能になるのです。日本の生産企業と同様に、たゆまぬ企業努力によって優れた製品が製造されていることがよくわかりました。

UC Davis は 1905 年に設置されたカリフォルニア州デービスに本部をおくアメリカ合衆国の州立大学です。世界でも屈指の生物関連の研究設備が充実した大学であり、多くの留学生も在籍されていました。現地の方からすると、私と同じ外国人の学生が、外国語を駆使しながら研究を行っていることには衝撃を覚えました。慣れない地で外国語を話しながら研究を進めていくには相当な苦労を要していることでしょう。また、今回の訪問では工学部の研究室を主に見学させていただきました。そこでは、大学が所有する世界一大きな遠心分離機を使用して「地面の抵抗力」についての実験・研究を行っていました。研究の規模もさることながら、私と同年代の大学院生が粘り強く研究に打ち込む姿には感銘を受けました。場所は違いますが、同じ大学院生ですので、私もより一層力をいれて自身の研究を行おうと強く感じました。

## 5. アメリカでの生活

私は英語が得意な方ではありません。RUBeC 演

習に参加する前は、英語が話せない状態で海外に行き、現地の方と果たして交流することなどできるのだろうかと不安でした。しかし、いざ行ってみると、そのような心配は無用だということがわかりました。ホームステイファミリーは、私のつたない英語を必至に理解しようとしてくださいましたし、私と話すときも私が理解できるようにゆっくりと話しかけてくださいました。街に出掛けたときも、見ず知らずの私に皆さんはとても親切に接してくださいました。現地の方はとてもフレンドリーなので、自身の英語力のなさに卑下することなくコミュニケーションを取ることができました。一人で悩むのではなく、どんどん進んでコミュニケーションを取っていくことが大切なのだということがよくわかりました。

## 6. おわりに

今回のプログラムで海外へ行ったことにより、現地の生活スタイル、文化、価値観と、いずれも日本では味わうことのできない貴重な体験をすることができました。特に英会話については、日本にただけでは決して学ぶことのできない数多くの収穫がありました。慣れない場所で苦労することもありましたが、何物にも代え難いよい経験となりました。2週間という短い期間ではありましたが、コミュニケーションを取ることの大切さを度々実感いたしましたので、私もこれからは海外でも活躍できるようなグローバルな人間となれるように努めたいと思います。